

Website の英語発音ページを利用したの音声教育

今 関 雅 夫

1. はじめに

“All languages are spoken.”という言葉がある。(<<http://www.delmar.edu/eng/instruct/stomlin/1301int/lessons/language/language.htm>>)つまり、言葉の本質は音声であり、言語学習、言語教育ではどんな言語が対象であれ、音声学習、音声教育が非常に重要であるということになる。

学習者からみた音声学習とは、最終的には正しい音声をreproduceできるかどうかということになる。英語ならば、英語を母語とする人達と同様な発音、抑揚、リズムが出せるかということがポイントになる。学習者は一般に教材の説明を読み、添付メディア（カセットテープやCD）を利用して繰り返し発音練習をすることになる。ビデオ教材やテレビの英会話番組等を利用すれば、native speakerの口の形の変化に注意を払いながら練習もできる。この学習法は一種のtrainingで伝統的な発音習得法とみることができる。さらに、最近では上記の勉強法のほかにパソコンを用いて、インターネットの発音関係のページを使って、またソフトを使って勉強するということが可能になってきている。

一方、教える側、すなわち音声教育をする側からは、trainingだけで終わっていいのかという思いが絶えず付き纏っていた。つまり、音声教育というからにはtrainingであり、またeducationでなければならないと思われるからである。（ここで言うeducation（教育）とは、「教え、教わりながら、内面的に人間が豊かに成長(成育)するため」の教育を意味する。換言すれば、知識を知性にまで高めるということである。）

この小論では、インターネット上の様々な発音関係のwebpageをみて、その特徴を概観、比較し、現段階での傾向とこれからの展望を考えてみると

同時に、trainingだけで終わらすのではなく、educationにまで高める方策を考えてみたい。

2. 発音関連サイトを比較する。

この章では、数多くあるWeb上の発音関連サイトから16を選び、内容を概観し、特徴について述べていく。これらのサイトへは、リンクを張っている以下のWeb guideから行ったり、サイトがさらに別の発音関連サイトにリンクを張っている場合はそこへも行き、最終的には合計30ほどのサイトを閲覧した中から有効と考えられるものを選んだ。ただし、今回は幾つかの例外はあるが、ソフトを有料でダウンロードし学習するサイトは除外してある。

ESLCafeWebGuide<<http://www.escafe.com/search/Pronunciation/>>

SoundsOfEnglish<<http://www.soundsofenglish.org/links.htm#pronunciation>>

EnglishChannel<http://www.hio.ft.hanze.nl/thar/links_te.htm#Speaking>

2.1. Accurate English <<http://www.accurateenglish.com/>>

発音の癖（なまり）をなくし、分かりやすいコミュニケーションを実現するために有料でレッスンを行うページであるが、“Ten Tips for Accent Reduction” は参考になると思われるのでその要点を紹介する。① native speakersの口の動きを観察しその動きを真似る。② 英語の正しいイントネーションとリズムが身に付くまではあまり速く話さない。③ 英語の流れ(“music”)、節回しに耳を澄ます。④ 発音記号に親しみ、発音の難しい語に対しては正しい発音を調べる。⑤ 何度も発音を間違える語のリストを作り、native speakerに発音してもらう。⑥ カセットテープ読本(books on tape)を買い、テープを聴きながら読書をする。また、テープに合わせて発音をし、比較する。⑦ 単語の最後の音をきちんと発音するように。特に、“s”や“ed”に注意をする。⑧ 英語を発音する時に使う口の筋肉を鍛えるため、毎日15分から20分ほど声を出して英語を読む。⑨ 自分の発音を録音し、発音上の間違いがないか聴く。⑩ 一晩で話し方、発音の仕方が変わ

るわけがないので、忍耐強く努力する。

<<http://www.accurateenglish.com/HTML/tips.htm>>

特に、テープに合わせて発音練習をする、毎日15分から20分声を出して練習をする、自分の発音を録音し（耳を日本語用の耳から英語用の耳にセットし）チェックする、という箇所は発音上達の上で非常に参考となるところであろう。

2.2. American Accent Training <<http://www.americanaccent.com/>>

Ann Cookが運営している上級者を念頭に置いたAmerican Accent TrainingのWebpageであり、有料のtrainingも提供しているが、intonation、liaisons、pronunciationのそれぞれに対して彼女の主張を書いたページがあり参考になる。上記3つのうち、特に重要なのはintonationであるといい、「英語は語順が決まっている言語であるから、何かを強調するとき語順を変えることはしない。意味、感情、状況を伝えるのにピッチの上がり下がりが使われる」と述べる。どの語を強く読むかによって意味が変わってくる例として以下が示されている。（太字は強く発音される語を示す。）

1. I didn't say he stole the money, someone else said it.
2. I didn't say he stole the money, that's not true at all.
3. I didn't say he stole the money, I only suggested the possibility.
4. I didn't say he stole the money, I think someone else took it.
5. I didn't say he stole the money, maybe he just borrowed it.
6. I didn't say he stole the money, but rather some other money.
7. I didn't say he stole the money, he may have taken some jewelry.

また、liaisonsの項では、native speakerの響きを身に付けたいならliaisonの習得が重要であると述べ、例えば、以下の文は同じに聞こえるという。

They tell me the dime easier to understand.

They tell me that I'm easier to understand.

pronunciationの項では、/t/ に触れ、語の中ほど、あるいは文中の /t/ はソフトな /d/ になる。(例えば、letter は /ledder/ のようになる。) また、/n/ のつぎに /t/ がくると /t/ が消えることがある。

interview [innerview]

international [innernational]

advantage [advanʹj]

percentage [percenʹj]

このWebpageの冒頭にはアメリカ的な発音が実際の音を表すスペリングで書き表されている。これによれば、“Let’s go!” は「スコウ」のように発音され、聞こえるという。

AmericanPronunciation	Regular Spelling
Kweegeddit?	Can we get it?
Sko!	Let’s go!
Jeet? No, joo?	Did you eat? No, did you?
Jlaik smore?	Would you like some more?
I shuda tol joo.	I should have told you.
Leddergeddabedderwadrheedr.	Let her get a better water heater.
How to wreck a nice beach.	How to recognize speech.
Hole dana sek’nt!	Hold on a second!
Haoja ly kuh liddul more?	How would you like a little more?
They doe neev’n lye kit.	They don’t even like it.

2.3. American English Pronunciation Practice <<http://www.manythings.org/pp/index.html>>

Minimal Pair Practice & Quizzes, Songs & Poems, Tongue Twisters の項からなり、それぞれ実際に発音を聴いて復唱するという練習ができるようになっていいる。Minimal Pair Practice & Quizzes は全部で24課からなっており、minimal pairs の単語の発音を聴き、まねて発音し、どちらが発音されたかというクイズになっている。実際の例として、Lesson 4

を見てみる。

Practice		Correct
[light]	[right]	0
Quiz		Wrong
[Listen, Then Choose]		0
[light]	[right]	

この課では /l/ と /r/ の識別ができるようになることを目指しているが、まず Practice の左下の [light] あるいは右下の [right] をクリックする。するとクリックした方の単語の正しい発音を聴くことができ、学習者は聴いて発音練習をする。音の差異を理解したところでその確認のため Quiz に行き、[Listen, Then Choose] をクリックする。どちらか一方の単語が発音されるので正しいと思われる単語を選択する。すると Correct または Wrong の文字が出て正解か否かの解答を示してくれる。何回か挑戦しその結果が右横の Correct と Wrong に数字で現れる。単語レベルの微妙な音の差異を効果的に学習できるページであると思われるし、日本人が不得手であるといわれる /l/ と /r/ の習得に威力を発揮するであろう。

2.4. Authentic American Pronunciation <<http://eleaston.com/aap/>>

母音、子音に分けて数多くの単語を Sound Files を用いて実際に聴かせてくれる。また、発音と spelling の関係にも注意を向けるようになっており、例えば、/ow/ を例で見ると、o...e や oa, l の前の o などによく /ow/ と発音されることが分かる。

o...e: Coke, code, joke, note, rope, wrote, rode

oa: oat, boat, coat, coal, goal, roast, throat, toast

ol: old, cold, fold, told, bolt, colt, poll, toll

ow: snow, to row a boat, to sow seeds, to tow to pull, to mow the grass, ...

etc.: although, doughnut, go, no, toe, Joe, to sew clothes, ...

homonyms: clothes - close the door

know - no

sew - sow - so

road - rode

toll - tole

また、自然なスピーチでは短縮や同化が頻繁に起こることからこれらについてもかなり詳しく触れられている。短縮や同化が起きた語句の発音を聴き、元の英語をキーボードを使い入力しなさい、という練習問題も用意されている。

2.5. English Language Learning Courses, Resources, Phonology & Teacher Training <<http://www.btinternet.com/~ted.power/index.html>>

2.4. で触れたように書き言葉と話し言葉の違いのひとつに spoken English では同化がよく起こるということが挙げられる。話すときに、書かれた英語を読むような、同化のない英語を話すと、ゆっくりとした不自然な響きの英語になってしまう。この同化の例をかなりの数で示してくれているのが上記のページからリンクが張られている“English Phonology and Phonetics - Assimilation - ”である。実際の音が聞けないのは残念だが指示通り注意を払って発音練習をすると実際の面でも役立つと思われる。<<http://www.btinternet.com/~ted.power/assimilation.html>> ここでは以下のように同化の例を 9 に分けている。

Assimilation 1: /t/ changes to /p/ before /m/ /b/ or /p/

Assimilation 2: /d/ changes to /b/ before /m/ /b/ or /p/

Assimilation 3: /n/ changes to /m/ before /m/ /b/ or /p/

Assimilation 4: /t/ changes to /k/ before /k/ or /g/

Assimilation 5: /d/ changes to /g/ before /k/ or /g/

Assimilation 6: /n/ changes to /ŋ/ before /k/ or /g/

Assimilation 7: /s/ changes to /ʃ/ before /ʃ/ or /j/

Assimilation 8: /z/ changes to /ʒ/ before /ʃ/ or /j/

Assimilation 9: / n / changes to / ŋ / before / k / or / g /

2.6. VLC's English Pronunciation <<http://vlc.polyu.edu.hk/pronunciation/>>

Chris Greavesが管理しているVirtual Language Centre (Hong Kong) の発音関係のページである。The Organs of Speech、Vowels、Comparative study of vowels、Consonants、Voiced and Voiceless sounds、Revision Exercises等からなっており、The Organs of Speechでは、発音に使われる器官の名称、子音の発音時に使う器官及び働きが口の断面図と共に詳しく載っている。Vowels では単母音 (simple vowels または monophthongs という) が12、二重母音 (complex vowels または diphthongs という) が8つ示され、発音上の注意点を読んで、それぞれの練習問題へと進む。Listen, Repeat, Choose の練習問題では、音を聴き、発音練習をし、minimal pair の中の読まれた方にチェックをつけていくという形式で、全問できたところでsubmit ボタンを押し、結果を見るという形になっている。Comparative study of vowels では、微妙に異なる母音を8組取り上げ、その差異を説明している。Consonants (子音) や有声音 / 無声音でも詳しい説明がなされている。Revision Exercises では母音、子音の練習問題だけではなく、やはり“Putting words together” と “Common phrases” の項で音連結 (liaison) や同化 (assimilation) を扱っている。

2.7. Okanagan University College: English Pronunciation <<http://www.faceweb.okanagan.bc.ca/pron/>>

カナダの British Columbia にある大学提供の発音講座であるが、完成されておらず、2001年9月現在、Unit 1 (/ θ /)、Unit 2 (有声音の th)、Unit 3 (/ l / と / r /)、Unit 4 (/ i / と / I /)、Unit 5 (/ s /、/ ʃ /、/ ʒ /)、Unit 6 (/ v / と / w /) のみの使用が可である。発音方法の説明も文字と音声で示し、また復唱する練習がついているが音質が非常によい。digital video による映像もあり口や舌の動きが目で見えて分かるようになっている。

他に minimal pair や dictation 等があり内容の濃いレッスンになっている。Unit 7 以降の発表が待たれる。

minimal pair の中では、日本人が識別で最も苦勞する /r/ と /l/ についての音を聴いての練習問題があり、何回もやることで正しく識別する力をつけることができると思われる。

2.8. English Club Pronunciation < <http://www.englishclub.net/pronunciation/> >

単語のレベル、また文のレベルでも stress が大切であるという立場から詳しい解説があり、それと共に実際の音も聴けるようになっている。文レベルの stress では内容語 (content words) と機能語 (structure words) の説明があり、内容語と内容語の間の時間は原則として同じになるから、その間に入る機能語は、短い機能語 (音節が少ない機能語) はゆっくり発音され、音節の多い機能語の場合すばやく発音されることになる。

Linking in English の項では、連結の重要性を語り、linking が分かり使えるようになれば、「あなたは人が話すのをより楽に理解できるようになるだろうし、相手も話し手であるあなたの言っていることを容易に理解するだろう」と述べている。(If you recognize and use linking, two things will happen: 1. you will understand other people more easily. 2. other people will understand you more easily.)

2.9. Intonation and Stress: Key to Understanding and Being Understood < <http://esl.miningco.com/library/weekly/aa110997.htm> >

ここでも内容語と機能語の重要性が指摘されている。つまり、ある幾つかの単語に stress が与えられ、残りの単語はすばやく発音されるのが英語の特徴だという。(English is considered a stressed language while many other languages are considered syllabic. ..., in English, we give stress to certain words while other words are quickly spoken.) native speaker の英語は速いとよく言われるが、特に速い箇所は機能語の

ところであり、実はそれほど重要ではない情報があるところなので、あまり気にすることはないと述べ、ホッとさせられる。(English, however, spends more time on specific stressed words while quickly gliding over the other, less important, words.)

2.10. English Channel <<http://www.hio.ft.hanze.nl/thar/pronun.htm>>

単母音、二重母音、子音、音を作るときの各器官の働きや口の形、アクセント等、発音の基本を簡潔に説明しているページである。単語レベルであるが実際の音も聴ける。このWebpageの冒頭で、このページを最後まで進むと、同じように聞こえる単語の音を識別できるようになる、と述べているが実際にはminimal pairの例が4つしかなく、これだけの量では識別力をつけるところまでは行かないであろう。

2.11. KAIST's Pronunciation Page <<http://sorak.kaist.ac.kr/~aizen/pron.html>>

韓国のKorea Advanced Institute of Science and Technology (kaist) が提供している発音関連のページで、子音、母音、音連鎖、複数形/所有格/三人称単数のs、過去/過去分詞形の-ed、“see”と“she”、強弱(ストレス)、抑揚(イントネーション)、混成(ブレンディング)、リズム、“can”と“can't”などが実際の音と共に詳しく扱われている。“see”と“she”の項では、韓国人はしばしば“see”を“she”と発音することが指摘されており、その理由として、韓国語で/s/の音は母音/i/の前では必ず/sh/と発音されることと関係があると述べられている。(日本語でも「さ、し、す、せ、そ」から分かるとおり、「し」だけが“shi”の音である。) 母語の音が外国語の発音に影響を与える例である。さらに、“see”を/siy/と発音するための矯正法、発音練習や識別クイズへと進む。

Spread your lips.

Place the tip of your tongue near the inside of your front teeth.

Force air through the narrow space between your tongue and teeth.

Website の英語発音ページを利用したの音声教育

Do not vibrate your vocal cords.

Then you must pronounce the /iy/ sound.

2.12. Relaxed Pronunciation <<http://www.geocities.com/Athens/Acropolis/8995/relaxed.html>>

書き言葉では誤りとされるが話し言葉では正しいとされる形があるがその豊富な例を示してくれているページである。

BIN = been: How have you "bin"?

WHADDJA = What did you: Whaddja do over the weekend?

WUTCHER = What is your: Wutcher name?

TSKO = Let's go: Tsko to the movies!

TSUP = What's up?

NKU = Thank you: Nky. It's very kind av you!

KIN = can: I kin stay here with you.

DJA = Did you: Dja ever notice she is quite beautiful?

PROLLY = Probably: He is proolly working now.

など40例を示している。

2.13. American English As It's Spoken-Contractions and shortcuts used in daily speech <<http://filebox.vt.edu/users/bholmber/American.htm>>

英語の達人のような響きを身につけるには短縮音や省略音を学習することが重要であり、またネイティブの言葉を理解する上にも役立つ、ということを実際の音と共に様々な例を示している。

/nt/-->/n/: twenty/tweny/, printer/prinnr/ (ただし、前置詞の into や onto は /t/ の音を略さない)

代名詞を省略する: "I hope you do well." = "Hope you do well."

2.14. Symbols for American English Vowel Sounds <<http://>>

faculty.washington.edu/dillon/PhonResources/newstart.html>

アメリカ英語の母音に関するページでIPA他様々な表記法で15の母音が実際の音と共に示されている。Spectrographic Analysisもついており視覚的にも理解できるようになっている。<<http://faculty.washington.edu/dillon/PhonResources/javoice/vowjavoic.html>>

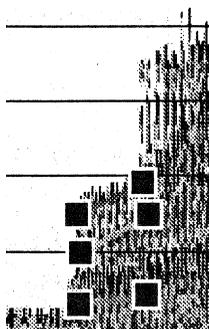
2.15. Why you should study English pronunciation <<http://www.antimoon.com/how/pronuncwhy.htm>>

発音が悪いとnative speakerはこの人は正しい英語を話せない人とみなすということを力説し、発音の重要性を説く。(If your pronunciation is poor, they (= native speakers) will immediately think about you as “the guy/girl who speaks bad English”.) また、発音が悪いと相手に理解されない、相手に不快な音として響くということもありコミュニケーションのために「よい発音」を身に付けることの必要性も説く。英語の発音には1から3までのレベルがあるという。level 1は、発音が間違っていて、伝えたいことを相手が理解してくれないというもの。level 2は、伝えたいことを相手は理解してくれたが、あなたの言葉を聴いていて楽しくないというもの。level 3は、相手があなたを理解し、あなたの英語は聴いていて心地よさを感じるというものである。この中でももちろんレベル3がgood pronunciationと呼ばれるものである。

2.16. Spectrogram Reading Home Page <<http://cslu.cse.ogi.edu/tutordemos/SpectrogramReading/ipa/ipahome.html>>

母音、及び子音の全てのspectrogramを示し、フォルマント1～3のおおよその周波数も示してくれている。声紋や波形を使ってターゲットとしている音声の習得を目指している。また、例えばriceとliceのような日本人にはその識別が難しいといわれる音に対しても視覚的に理解してもらおうという姿勢は重要である。容量が大きくなり表示に時間がかかることになるかもしれないが、これからの発音習得法の大きな一助となるであろう。

このサイトでは現状では単語レベルの表示だけであるが、文レベルの音声分析を示してくれるとさらに助かると思われる。



2.16.1 図は“rent”の声紋を示したもので、/r/のフォルマントの流れを小さな黒色の四角で示している。これをみると/r/は最初低い周波数から始まり徐々に周波数が高くなっていくことが理解される。

2.16.1 (rent)



一方、2.16.2 図は“lent”の声紋を示しているが、明らかに/l/の部分のフォルマントの流れが異なることが見て取れる。/l/の音を出す時、舌先が硬口蓋にタッチするがその時に/r/に比べると高い周波数が出ていることが分かる。

2.16.2 (lent)

3. 発音関連サイトを概観して

以上、16のサイトを見てきたわけであるが、どのサイトも発音上達の上で役立つと思われる。ただその教授法の多くは、一言で言えば、伝統的な音声指導という感じがする。つまり、扱われている素材は主に単語レベルであり、説明が示され、練習問題も minimal pair が中心である。しかし、中には、音連結や同化、音声分析機による声紋・波形を示してくれている

ページもあるように、こういった面への配慮は重要でこれからも増えていくであろう。ただし、音連結や同化は公式化して覚えていくことは難しく、労多くして功少ないということになるであろう。量をこなして自然と身に付けていく他はないと思われる。イントネーションを扱っているページもあったが、音連結、同化と同様に、単語レベルから脱却し、語句レベル、文レベル、つまり、prosodic なレベルへと向かっていってほしいと思う。

4. 音声教育と発音関連サイトの展望

音声教育はtrainingかeducationかではなく、trainingとeducationにすべきであるという立場からみると、単語レベルに始まり、文レベル、パラグラフ・レベルへと高めていく中で、どのレベルにもtrainingの要素は必ずあり、特に単語レベルはtrainingのみであろうが、次のレベルに上がるにしたいが、文の内容、パラグラフの内容に教育的な配慮を施すことが必要であろう。つまり、題材として扱われる文や文章は異文化、ニュース、歴史、小説、詩等がよく、発音練習には違いないが、読んで発音するためになるー内面的な成長を高めるーような内容のあるものがよいと思われる。そのような題材を意味を考えながら、単語の発音、音連結、同化、イントネーションに注意して発音練習していくことが重要である。

上記のことを実現する発音関連サイトとして以下のようなサイトができれば理想的である。

- ・ 単語レベル：実際の音、声紋分析の表示（学習者の発音を録音、声紋分析しnative speakerと比較できるようになればさらによい）、minimal pairによる練習問題。
- ・ 語句レベル：実際の音、音連結や同化、練習問題。
- ・ 文レベル：実際の音、機能語・内容語、区切り方、イントネーションに注意しての練習問題。
- ・ 文章・段落レベル：文レベルの内容に加えて感情等の表現方法の練習。
- ・ 実際の音に関して：（美しい発音、読むリズムやスピードの適切さ、感情を込めた読み等を、これらを伴った）readingのプロによるものが理

想である。美しい発音を聴けばそれを真似したくなるものである。

上述のようなサイトがあるならば発音力向上に大いに威力を発揮すると思われる。さらに、著作権の問題もあるが、映画などの映像を見ながら、表示されている subtitles (字幕) を役者に合わせて発音していく、という勉強法も効果があるだろう。その映画が気に入って何度も見て発音練習していけば、いつかは字幕を見なくても役者と同じ節回しで、感情を込めて発音している自分に驚くであろう。映画を通して異文化理解などの内面を高める教育もできると思われる。重要なことは、このような音声教育を通して、発音練習だけで終わることなく、4 技能の全ての力を高め、と同時に、知性を高める教育もできるという点である。